

副作用状況に応じた減薬提案

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は副作用モニタリングを実施することで、副作用予防目的で処方された薬剤の漫然投与を回避できた事例のプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶左上顎歯肉癌に対する加療目的で入院した患者。疼痛コントロール目的にトラマールの開始に伴って嘔気予防のためノバミンが開始されていた。服用開始から3ヶ月が経過している。

Mさん

【処方】トラマール®OD錠（25 mg） 1回1錠 1日4回朝昼夕食後眠前
ノバミン®錠（5 mg） 1回1錠 1日3回朝昼夕食後



お願いします。

Mさんこんにちは。
持参されたお薬の確認をしていきますね。



薬剤師



痛み止めと吐き気止めですよね？

トラマール®とノバミン®を飲まれているんですね。
何に対して使われていますか。



あまり痛みは気になりません。

そうですね。痛みの程度はどうでしょうか。



痛み止めで吐き気が出るかもしれないからって言って一緒に飲み始めたんだけど、一度も吐き気が出たことはありません。

そうですか。吐き気はどうでしょうか。



医師

そうですね。ノバミン®は中止としましょう。

さきほどMさんと面談してきました。
疼痛コントロールは良好な印象でした。くわえて嘔気の副作用は全くないそうです。ノバミン®は長期投与により、錐体外路障害などの副作用が起こりうる可能性がありますので、一度中止してみてもいいかもしれません。



副作用モニタリングを行うことで患者の副作用状況に応じた処方提案ができ、適切な医療の提供に貢献できた。